

1 大会の山城

(1) 山城の概要



図1 鷹ノ巣山(左)と英彦山(右)

英彦山は福岡県と大分県の県境にそびえている。旧国名で言えば筑前国、豊前国、豊後国の三国にまたがっている山城である。詳しい歴史は後で述べるが、英彦山神宮の前身、英彦山ひこさん霊仙寺は鎌倉時代には七里四方(一辺約30km四方)に及ぶ広大な領地(寺領)を持っていた。江戸時代になると寺領は削られたが、山頂から半径5km程度の地域は英彦山領であった。そのため現在でも福岡県、大分県の英彦山付近は県境未定地域となっている。

また英彦山は巨大な分水嶺でもあり、福岡県側の北斜面に降った雨は遠賀川おんがかわとなって玄界灘げんかいなだに、あるいは今川すおうなだとなって周防灘すおうなだに注ぎ、大分県側の南斜面に降った雨は筑後川ちくごかわとなって有明海に、あるいは山国川やまくにがわとなって周防灘すおうなだに注いでいる。

山容の概略は、北斜面は比較的なだらかであるが、南斜面は急峻で生活に適さない。従って、古来集落は北斜面に集中し、南側は裏英彦山と呼ばれて人跡のまばらな地域である。周辺の山について、鷹ノ巣山は添田町英彦山の東方及び豊前市犬ヶ岳の西方に位置する山で一ノ岳いちのたけ979m、二ノ岳にのたけ950m、三ノ岳さんのたけ980mと3つの山頂で成り立っている。鷹ノ

巣山から見て西側には薬師峠やくしとうげ、東側側には野峠のとうげからそれぞれ登山口がある。昭和49年の高校総体では英彦山から犬ヶ岳までのコースも大会ルートとして記載されていたが三ノ岳から野峠へ歩道は現在不明瞭になっている。鷹ノ巣山は約200万年前の耶馬溪火山で生まれた英彦山の一部が長い年月の風化浸食を受けてできた。硬い溶岩の層があるため、ビュート(卓状円錐形の山)へと形を変えた。国の天然記念物に指定されている。

また、英彦山の南西側には岳滅鬼岳がくめきだけを最高峰とする稜線が連なっている。岳滅鬼峠には「従是北豊前國小倉領(是より北、豊前の國小倉領)」と書かれた古い石碑が建っており、日田へ抜ける古道であったことがわかる。岳滅鬼峠から右折すると峰入りの古道に入る。この道は、福岡、大分県境の瘦せた稜線をたどり、岳滅鬼岳1040m、岳滅鬼山1036m、宝珠山869m、釈迦ヶ岳844mを経て研石きりいし峠とうげに至る。

(2) 「霊山」英彦山



図2 修復工事中の上宮

英彦山は北岳きただけ1192m・中岳なかだけ1188m・南岳みなみだけ1199mの三つの山頂を持ち、福岡県内では釈迦ヶ岳しゃかだけ1231mに次ぐ標高を誇る。付属するピークとして上伝来山かんぶくやま

685m、黒岩山^{くろいわやま}878m、障子ヶ岳^{しょうじがだけ}948m、鹿の角^{しか つの}1,071m などがある。山の中腹700m近辺に英彦山神宮奉幣殿^{ほうへいでん}があり、多くの参拝客が訪れる。山頂には上宮^{じやうぐう}がある。一部登山道は2022年8月より修復工事の為通行禁止になっていたが2025年12月6日に完成した。また、2005年10月に英彦山神宮へ続く参道沿いに、銅鳥居横^{かねのとりい}の幸駅^{さちえき}を起点として旧英彦山小学校を利用した花駅^{はなえき}、別所駐車場の最寄りとなる参道駅^{さんどうえき}（下車のみ）を経由して参道終点の英彦山神宮奉幣殿下の神駅^{かみえき}に至る全長849mのスロープカーが完成し、約15分で行けるようになったが、現在は花駅から神駅までの区間を約7分で運行している。

英彦山は出羽三山^{でわさんざん}（山形県）・大峰山^{おおみねざん}（奈良県）とともに「日本三大修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇の25年（531年）北魏の僧善正上人^{ぜんしょうしやうにん}の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄^{こうゆう}が善正に師事して忍辱上人^{にんにく}と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開いたと伝えられている。この霊仙寺は明治の神仏分離までは、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁10年（819年）、法蓮上人^{ほうれん}が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。

その後、鎌倉時代までに49の窟が整備され、山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は、神事色が強まり、峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より、宝満山^{ほうまんざん}、福智山^{ふくちやま}に出て、得度を積む修業が始まった。

戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟^{おおともそうりん}との確執が大きく、多くの堂宇^{どうう}が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四

方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興^{ほそかわただおき}や佐賀藩主鍋島勝茂^{なべしまかつしげ}らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年（1637年）にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。彦山は平安時代以来京都聖護院^{しょうごいん}の末寺という扱いであったが、聖護院を相手に訴訟を起こして勝訴し、元禄9年（1696年）に幕府から「天台修験別格本山」として公認された。寛文11年（1671年）には小笠原氏が門前集落のほぼ中央部に町屋五十軒の「彦山町」を新設した。宿屋や商店の他芝居小屋まであり、参拝客の息抜き場としてたいへん賑わったという。宝永年間（1704～1711年）に彦山の人口は最高に達した。坊舎や庵室の数は557、僧俗併せた総人口は3,015人という記録が残っている。享保14年（1729年）には霊元法皇より「英」の字を賜り、以後英彦山と表記するようになった。この頃が英彦山の最も栄えた時期である。英彦山が栄えた理由の一つとして豊かな経済力が考えられる。前述のように江戸時代の英彦山領は戦国時代以前に比べて大幅に削減され、小笠原藩と細川藩からの布施米は300石程度であった。そこで英彦山山伏は九州各国だけでなく、周防・長門国（山口県）や伊予・讃岐国（愛媛県・香川県）まで回国をして檀家を増やすことに努めた。英彦山修験道が崩壊する寸前の明治7年の記録を見ると、英彦山の坊舎が持つ檀家総数は346,209軒であった。江戸時代の最盛期にはもっと檀家の数は多かったと推測される。山伏達はこうした檀家を回って加持祈禱を行いお札を配ってお布施を受け取った。また、各坊舎には秘伝の薬があって、山伏は薬の販売も行っていた。研究によれば、檀家から上がるお布施の総収入は七里四方の寺領を持っていた時代よりもはるかに大きかったという。

※人名は諸説ありますが今回の大会では上記の読み方で統一します。

2 大会コースのルートガイド

太字下線は主要地点

1 日目：正面道コース

(メインザック・チーム行動)



図3 銅鳥居

銅鳥居からスタートする。奉幣殿までは石段を登っていくが参拝者や登山者も多く、また参道の両脇には一般公開されている宿坊や売店が営業されているので人の出入りには注意しよう。旧亀石坊庭園分岐を左に見ながら通過し石段をさらに登っていく。石段の脇にはミツマタやクリンソウが点在している。立派なスギの木が周囲に見え始めたら奉幣殿にたどり着く。右側には天ノ水分神と呼ばれる湧水と池、その奥にはヒコサンヒメシャラ、さらに奥がスロープカーの終点である神駅がある。奉幣殿では迷惑にならないように立ち止まらずに通過しよう。

ここからも正面に見える石段を登っていき、右に三呼峠方面への分岐、そして左側に下津宮を通過する。整地された石段から登山道へと変わっていき傾斜が急になってくる。いったん緩やかになったところで頭となる。さらに登っていくと鎖場がある。右側に巻き道がありどちらも通れるが巻き道よりも直進の方が安定している。鎖場を通過

すると緩やかになり左上には中津宮の鳥居が木立越しに見える。



図4 中津宮

さらに進むと直進は上宮、左側に鋭角に曲がっていく分岐点に到着する。この分岐点を正面道分岐とし、左に曲がり下っていく。

ここからはほぼ下りになる。ここまでは正面道で整備されていたがここからは浮石や倒木などもあるので足元に注意して進もう。最初はスギの植林、足元にはヒカゲノカズラが群生している谷沿いを歩いていく。その後進んで行くと、直進と右に鋭角に曲がる分岐がある。見落とさないように右折しよう。ここからはトラバースしていきながら進んで行く。また、この付近は鋭利な落石もあるので、怪我防止の為手袋を着用しよう。しばらく進むと右に中岳山頂へと向かう分岐とさらに左に野営場へと向かう分岐がある。この分岐点が北西尾根分岐である。ここはそのままトラバースを直進しよう。この付近の植生はシキミやリョウブ、ツガなどの自然林が目立っている。そのままトラバースして進んで行くと徐々に道が下っていく。左側にカヤの草原が広がってくる。さらに下っていくと丁字路となり右に進むと間もなく英彦山青年の家に到着する。

2日目：北岳—中岳—鬼杉コース
(メインザック・隊行動)

英彦山青年の家を出発し九州自然歩道に入ると、右が鷹巣原駐車場、左が高住神社たかすみじんじやになっているので左に進む。この区間はヒノキも混じるが大半はスギの植林地帯となりこの中を歩く。途中車道に降りる場所があるがそのまま歩いていく。途中から、昔は高住神社へと向かう参道であったのが想像できる石畳の道となる。石畳が不安定になっている所もあるので注意して進んで欲しい。間もなく歩道の終点から国道500号線に出る。左が英彦山青年の家、右が高住神社方面になっているので右に進む。車に注意して通行していくと高住神社たかすみじんじや(豊前坊)駐車場に到着する。駐車場付近は、春のサクラの開花時期や秋のイロハモミジの紅葉時期は多くの観光客が訪れる場所である。ここから車道から離れ右側の鳥居をくぐり石段を登っていくと間もなく**高住神社**に到着する。



図5 高住神社鳥居

神社の周辺にはご神木である天狗杉やトチノキが見事である。高住神社から右に進むと北岳に向かう登山道になる。登山道にはいるとツゲが生い茂っている。さらに沢沿いに進んで行くと逆鋒岩さかほこいわ・屏風岩びょうぶいわ・筆立岩ふでたていわ

と名付けられた奇岩が出迎えてくれる。これらは火砕流が固まってできた凝灰角礫岩であり、長い年月の浸食作用により現在の形になっている。岩にはツクシシクナゲ・ゲンカイツツジ・イワタバコ・イワギボウシぼううんだいが見られる。さらに進んで行くと**望雲台分岐**となり左に進むと望雲台にたどり着くが、今回は望雲台には立ち寄らずに右に進んで行く。このルートはトラバースとなり一部崩落して迂回する場所がある。また、落石で鋭利な石もあるので怪我防止の為手袋を着用しよう。この付近の植生は森の貴婦人と呼ばれているオオヤマレンゲや県内屈指のシオジ林がありその林床にミヤマクマワラビが見られる。そのまま進んで行くと「救世安民」と書かれた自然石の碑や溶岩の壁と書かれた案内板いっぽんすぎを通過し、ガレ場の急登を登っていくと**一本杉**に到着する。



図7 一本杉直前の最後の登り

一本杉はその名前の通り添田の町からでも目視できるほど立派なスギが一本立っている。

ここから右に曲がるとすぐに岩場となるハシゴとロープがかけられているので登りやすい方から慎重に登ろう。ここを通過しても北岳まではロープを掛けられている所

があるので気が抜かずに進んで行こう。



図8 北岳

この辺りからブナが印象的で、その林床にはクマザサが生い茂っている。北岳の肩を通過し緩やかになるとすぐに**北岳**に到着する。ここから中岳方面へは約5年間上宮の修理の為通行できなかつたので県内の大会としては久しぶりのルートとなる。ブナ林を緩やかに下っていき鞍部まで到着するとここからは中岳への登りとなる。登りはマーカーやテープ等貼られているので登山道から外れないように注意して進もう。また、途中迂回路など数カ所分岐があるので歩きやすい道を判断して進んで行く。急登を登り終わると中岳の休憩所に到着する。休憩所横にはトイレも設置されている。休憩所の裏側からは天気良ければ大分県のくじゅう山系や熊本県の阿蘇山も見える。

一息ついたら目の前の階段を上ると改築された上宮がある**中岳**山頂に到着する。上宮の横を通過して南岳に向かって進んでいくと石段の正面道と左に南岳に向かう登山道がある。間違えて正面道を下らないように左の道に進む。短い区間であるが鞍部まで急な登山道を下っていく。鞍部にはアブラチャンやムシカリ、ブナが目につく。

鞍部から南岳山頂に向かう道とその手前に左に巻き道がある。さらにその手前に

はケルンの谷へと下っていく道がある。今回は山頂を踏まず巻き道を進む。トラバースしながら進んで行くと途中崩落している場所があるので慎重に進もう。そのまま歩いていくと右側から山頂から下りてくる登山道と合流する。この後も鎖場を通過するので慎重に進もう。

鎖場付近は展望が開けており、正面に岳滅鬼山・岳滅鬼岳の稜線がよく見える。岩場を通過後は目の前が大きな谷になっているので踏み外さないよう注意して欲しい。

さらに進んでいくと、一旦尾根から外れてトラバースしていく。この辺りの植生は、シキミや大会の時期に白い花が登山道を覆いつくすように咲くハイノキが群生している。ここを下ると展望がよい岩場横を通過する。さらに進んで行くと目の前に大きなスギが現れる。スギの横を通過してさらに進むと**材木石**に到着する。

材木石はマグマが急に冷えて固まったときにできた安山岩の柱状節理で、材木を積み重ねたように見えることから、このように呼ばれている。この付近はガレ場となっており、ここも落石に注意して進む。ガレ場を過ぎるとハウノキやイヌブナなどが見られ少しずつ植生が変化していく。



図9 鬼杉

また、ミヤマクマワラビも点在している。しばらく歩くと右側に^{さんこうげ}三呼峠分岐が現れる。一つ目は通過してさらに直進すると右側に2つ目の三呼峠分岐となる。ここもこのまま直進すると200m程先に^{おにすぎ}鬼杉に到着する。鬼杉からは^{おおみなみりんどう}大南林道方面へと進む直進と^{たまやじんじゃ}玉屋神社方面の右に進む道があるがあるが今回は直進する。

しばらく沢沿いに下っていくと獣対策ネットがあるので最初の人にはネットを開き、最後の人は閉め忘れないように通過するとすぐに大南林道に到着する。この林道を左に進むと岳滅鬼峠方面に進み、右に進むと汐井川駐車場方面へとなる。汐井川駐車場はその先にバス停もありレスキューとして利用できるのバス停までのルートを確認しておこう。今回は右に進み汐井川駐車場方面へと進む。しばらく林道を進むと直進が汐井川方面、右側が玉屋神社方面、左側が川を渡って岳滅鬼峠に進む汐井川渡渉点に到着する。ここを玉屋神社向かう右に鋭角に曲がる。



図10 汐井川渡渉点を右に曲がる

沢沿いに進んで行くと途中橋が崩落した場所があるので迂回路のルートを確認しながら進んで行こう。しばらく進むと先程の

鬼杉と繋がる登山道と合流する。この一帯にはフッキソウが群生している。ここを左に曲がり巨大なスギが立ち並ぶ道となりここを登っていくと玉屋神社に到着する。



図11 玉屋神社

玉屋神社に般若岩と呼ばれる岩がありこの岩穴に湧く湧水は日本三大霊水のひとつといわれている。

玉屋神社を通過したらこの後数回アップダウンを繰り返し進んで行く。しばらく歩くと右側から^{さんこうげ}三呼峠分岐と合流する。ここを通過するとすぐ右側に^{ばんじいわ}梵字岩分岐、さらに^{ちむろいせき}智室遺跡後を通過する。この区間の左側もフッキソウが群生している。この先は大きく高度を大きく変えることなくトラバースしながら進んで行く。しばらく進んで行くと昨日通過した奉幣殿のすぐ上の正面道に合流する。この石段を左に下ると奉幣殿に到着する。階段の脇にはツクシシャクナゲやマムシグサが見られる。

奉幣殿の本堂を通過しそのまま右側に曲がる。坂を少し下ると修験道館が見えてくる。修験道館を通過し直進すると再び歩道にはいる。途中車道を横断し左前の歩道に入るの道間違えないように注意しよう。

この付近の植生はミツマタや足元にはフッキソウの群生が見られる。ホテルや民家の横を通過していくとすぐに右に分岐があるので右に曲がる。雨の日は石で足元が滑るので注意しよう。そのまま進んで行くと目の前に^{たかすばる}高巢原駐車場が見えてくる。ここから英彦山青年の家まで登りになるので一旦高巢原駐車場に立ち寄り、一息ついてゴールを目指そう。高巢原駐車場を出ると国道500号線を横断する。すぐに直進と左の分岐があるがここは左折しそのまま進んで行く。すると再び国道に合流するので左前の歩道に入ろう。駐車場と英彦山野営場の間を通過し舗装路を直進していく。しばらく進むと左側の歩道に入り登っていくと昨日見えていたカヤの草原が見えそのまま直進していくと英彦山青年の家に到着する。

3 大会山城の主な地名

・添田町	そえだまち	・鷹巢原駐車場	たかすばるちゅうしゃじょう
・彦山駅	ひこさんえき	・中岳	なかだけ
・銅鳥居	かねのとりい	・奉幣殿	ほうへいでん
・下津宮	しもつぐう	・中津宮	なかつぐう
・上宮	じょうぐう	・産霊神社	むすびじんじゃ
・北岳	きただけ	・一本杉	いっぽんすぎ
・望雲台	ぼううんだい	・高住神社	たかすみじんじゃ
・豊前坊	ぶぜんぼう	・南岳	みなみだけ
・材木石	ざいもくせき	・三呼峠	さんことうげ
・鬼杉	おにすぎ	・玉屋神社	たまやじんじゃ
・梵字岩	ぼんじいわ	・智室遺跡	ちむろいせき
・汐井川	しおいがわ	・天ノ水分神	あまのみくまりのかみ
・修験道館	しゅげんどうかん		

4 大会山城の主な植物と生物

【主な植物】

- ・アブラチャン ・イヌブナ ・イワギボウシ ・イワタバコ ・イロハモミジ
- ・オオヤマレンゲ ・カヤ（萱） ・カヤ（針葉樹林） ・ゲンカイツツジ
- ・クマザサ ・クリンソウ ・シオジ ・シキミ ・ツクシシヤクナゲ
- ・ツガ ・ツゲ ・トチノキ ・ハイノキ ・ヒカゲノカズラ
- ・ヒコサンヒメシャラ ・ヒノキ ・フッキソウ ・ブナ ・ホウノキ
- ・マムシグサ ・ムシカリ ・モミ ・ミツマタ ・ミヤマクマワラビ
- ・リョウブ

【主な生物】

- ・ブッポウソウ ・コノハズク ・アカショウビン ・ヤマセミ
- ・メジロ ・ホオジロ ・ウグイス ・ヤマガラ ・オオルリ
- ・キュウシュウムササビ ・シカ

5 荒天対策

5月23日に起こった場合

	地震(震度5弱以上)	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月23日	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
5月24日	帰宅完了	通常行動	通常行動

5月24日に起こった場合

	地震(震度5弱以上)	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月24日	大会中止 早期帰還準備	行動中止 早期帰還準備	通常行動

※注意報であっても状況により館内待機やコースの短縮等の変更もありえる

6 共通課題テストの出題範囲について

共通課題テストは予報1号より1 大会の山城、3 大会山城の主な地名、5 荒天対策及び実施要項、大会地図から出題する